

寝屋川市教育長

「なわてん」を体験視察

大阪電気通信大学・総合情報学部卒業研究・卒業制作展「なわてん」が四條畷キャンパスで開催。映像作品、3DCGアニメーション、VR・AR作品、ゲームアプリ、音響作品、イラスト、3D造形、プログラミング、研究論文などの作品が展示された。2月9日(土)、高須郁夫寝屋川市教育長が大学を訪問。視察後、大石利光電通大理事長と懇談した。



高須教育長（左）と大石理事長



教育について話は尽きない

高須教育長(以下高)即戦力ですよ！大学を出て企業に入ってシリコンバレーで研究をしてという話ですが、この学生は同じような仕事をされている。大学は何といっても理事長。方向を定めるのは絶対に理事長です。

う。

大石利光理事長(以下大)大学は地域社会に必要でなかったら、意味がない。そのため



高度医療技術についての説明を聞きながら

（高）学問のための学問の大学はもう時代が終わっていると思う。理事長がおっしゃるようには社会の中で活かして豊かにしていける力が必要ですね。

（大）基礎研究は国立大学にしっかりやっていたら、我々は社会で応用できるように研究と教育を結び付けていかないと生き残れない

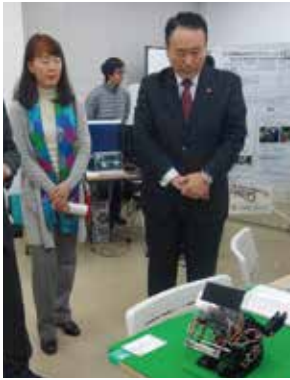
（高）ありがとうございます。すごい事をされていると感じしました。

（大）ありがとうございます。すごい事をされていると感じしました。

（高）ありがとうございます。すごい事をされていると感じしました。



VRの世界を体験する教育長



学生の研究作品に関心を示す教育長

ですね。

（高）基礎は国立からお借りして、その上に実際に社会で必要なものを構築すればいいですよ。

（大）人間力と技術力。座学だけでは技術力は育成できないですね。そういう意味でも産官学で勉強していく必要があります。我々にできることは何でもしますので教えてください。